りんご殺菌剤

トップジンM水和剤

R7・新規

1. 試験目的　防除効果の確認

2. 対象病害虫　モニリア病、腐らん病、（黒星病）

3. 試験内容

(1)実施場所　悪戸　　(2)実施農家　鳥井野ＳＳ共防５班

(3)実施支店　岩木支店　　(4)担 当 者　三浦　湧太

(5)概　　要

作 物 名　りんご　　品　　種　ふじ

樹　　齢　30年　　栽植密度　7 m × 7 m 20 本/10a

開 花 日　5月9日　　収穫始め　11月10日

(6)試験構成

試験面積　40 a　（　試験区　20 a　対照区　20 a　）

試験区				対照区			
散布日	薬剤名	倍数	10a当散布量	散布日	薬剤名	倍数	10a当散布量
4月22日	マシン油（乳）	200	350ﾘｯﾄﾙ	4月22日	マシン油（乳）	200	350ﾘｯﾄﾙ
〃	チオノック（F）	500	350ﾘｯﾄﾙ	〃	ベフラン（液）	1,000	350ﾘｯﾄﾙ
〃	トップジン（水）	1,000	350ﾘｯﾄﾙ				

4. 試験結果

(1)防除効果

対象病害虫	防除前発生状況	防除後被害状況	
		試験区	対照区
モニリア病	無	無	無
腐らん病	少ない	少ない	少ない

(2)薬害の発生

無

(3)農家の意見

差は感じられなかった。

5. 評価

(1)資材の評価

項目	散布効果	実用性	使いやすさ	総合評価
評価	3	3	3	3

(2)評価の理由

散布効果　同等

実用性　あり

使いやすさ　ベフランに比べ１剤増えるがあまり気にならない。

(3)その他特記事項

りんご殺菌剤

トップジンM水和剤

R7・新規

1. 試験目的　防除効果の確認

2. 対象病害虫　モニリア病、腐らん病、（黒星病）

3. 試験内容

(1)実施場所　大鰐町駒木　(2)実施農家　駒木共防

(3)実施支店　大鰐支店　(4)担 当 者　佐藤　琉乃介

(5)概　　要

作 物 名　りんご　品　　種　ふじ

樹　　齢　15 年　栽植密度　7 m × 7 m 20 本/10a

開 花 日　5月10日　収穫始め　11月25日

(6)試験構成

試験面積　40 a　（　試験区　20 a　対照区　20 a　）

試験区				対照区			
散布日	薬剤名	倍数	10a当散布量	散布日	薬剤名	倍数	10a当散布量
5月1日	マシン油（乳）	200	300ﾘｯﾄﾙ	5月1日	マシン油（乳）	200	300ﾘｯﾄﾙ
〃	トップジンM（水）	1,000	300ﾘｯﾄﾙ	〃	ベフラン（液）	1,000	300ﾘｯﾄﾙ
〃	チオノック（F）	500	300ﾘｯﾄﾙ				

4. 試験結果

(1)防除効果

対象病害虫	防除前発生状況	防除後被害状況	
		試験区	対照区
モニリア病	無	無	無
腐らん病	少ない	少ない	少ない

(2)薬害の発生

無

(3)農家の意見

今年は春先の降雨があり、モニリア病の心配があったが、特に問題はなかった。

5. 評価

(1)資材の評価

項目	散布効果	実用性	使いやすさ	総合評価
評価	3	3	3	3

(2)評価の理由

散布効果　対象区と同等だったため。

実用性　対象区と同等だったため。

使いやすさ　対象区と同等だったため。

(3)その他特記事項

りんご殺菌剤

トップジンM水和剤

R7・新規

1. 試験目的　防除効果の確認

2. 対象病害虫　モニリア病、腐らん病、（黒星病）

3. 試験内容

(1)実施場所　藤崎町西中野目　(2)実施農家　髙谷　博之

(3)実施支店　藤崎支店　(4)担 当 者　鳴海　清志郎

(5)概　　要

作 物 名　りんご　品　　種　ふじ

樹　　齢　25 年　栽植密度　7 m × 5 m 29 本/10a

開 花 日　5月5日　収穫始め　11月13日

(6)試験構成

試験面積　60 a （　試験区　30 a　対照区　30 a ）

試験区				対照区			
散布日	薬剤名	倍数	10a当散布量	散布日	薬剤名	倍数	10a当散布量
4月24日	マシン油（乳）	200	300ﾘｯﾄﾙ	4月24日	マシン油（乳）	200	300ﾘｯﾄﾙ
〃	トップジンM（水）	1,000	300ﾘｯﾄﾙ	〃	ベフラン（液）	1,000	300ﾘｯﾄﾙ
〃	チオノックフロアブル	500	300ﾘｯﾄﾙ				

4. 試験結果

(1)防除効果

対象病害虫	防除前発生状況	防除後被害状況	
		試験区	対照区
モニリア病	無	無	無
フラン病	無	無	無

(2)薬害の発生　無

(3)農家の意見　対照区と差はなかった

5. 評価

(1)資材の評価

項目	散布効果	実用性	使いやすさ	総合評価
評価	3	3	3	3

(2)評価の理由

散布効果　同等

実用性　同等

使いやすさ　一剤増えるが特に問題ない

(3)その他特記事項

りんご殺菌剤

トップジンM水和剤

R7・新規

1. 試験目的　防除効果の確認

2. 対象病害虫　モニリア病、腐らん病、（黒星病）

3. 試験内容

(1)実施場所　大森　　(2)実施農家　三上　義寛

(3)実施支店　北　　(4)担 当 者　成田　将平

(5)概　　要

作 物 名　りんご　　品　　種　ふじ

樹　　齢　40 年　　栽植密度　8 m × 7 m 18 本/10a

開 花 日　5月8日　　収穫始め　10月27日

(6)試験構成

試験面積　20 a （　試験区　10 a　対照区　10 a ）

試験区				対照区			
散布日	薬剤名	倍数	10a当散布量	散布日	薬剤名	倍数	10a当散布量
4月23日	マシン油	200	250ﾘｯﾄﾙ	4月23日	マシン油	200	250ﾘｯﾄﾙ
〃	トップジンM水和剤	1,000	250ﾘｯﾄﾙ	〃	ベフラン液剤	1,000	250ﾘｯﾄﾙ
〃	チオノックF	500	250ﾘｯﾄﾙ				

4. 試験結果

(1)防除効果

対象病害虫	防除前発生状況	防除後被害状況	
		試験区	対照区
腐らん病	少ない	少ない	少ない
黒星病	無	無	無

(2)薬害の発生

無

(3)農家の意見

差は感じられなかった。

5. 評価

(1)資材の評価

項目	散布効果	実用性	使いやすさ	総合評価
評価	3	3	2	3

(2)評価の理由

散布効果　同等

実用性　同等

使いやすさ　混用数が多い

(3)その他特記事項

りんご殺虫剤

ロムダンフロアブル

R7・新規

1. 試験目的　防除効果の確認

2. 対象病害虫　ミダレカクモンハマキ

3. 試験内容

(1)実施場所　宮舘　　(2)実施農家　髙谷　英治

(3)実施支店　船沢　　(4)担 当 者　天内　太陽

(5)概　　要

作 物 名　りんご　　品　　種　ふじ

樹　　齢　20 年　　栽植密度　6 m × 6 m 28 本/10a

開 花 日　5月8日　　収穫始め　11月8日

(6)試験構成

試験面積　30 a　（　試験区　15 a　対照区　15 a　）

試験区				対照区			
散布日	薬剤名	倍数	10a当散布量	散布日	薬剤名	倍数	10a当散布量
5月4日	パレード15（F）	2,000	350ﾘｯﾄﾙ	5月4日	パレード15（F）	2,000	350ﾘｯﾄﾙ
〃	ロムダン（F）	3,000	350ﾘｯﾄﾙ	〃	アタブロンＳＣ	4,000	350ﾘｯﾄﾙ
5月14日	ジマンダイセン（水）	600	350ﾘｯﾄﾙ	5月14日	ジマンダイセン（水）	600	350ﾘｯﾄﾙ
〃	ロムダン（F）	3,000	350ﾘｯﾄﾙ	〃	アタブロンＳＣ	4,000	350ﾘｯﾄﾙ

4. 試験結果

(1)防除効果

対象病害虫	防除前発生状況	防除後被害状況	
		試験区	対照区
ミダレカクモンハマキ	少ない	無	無

(2)薬害の発生

無

(3)農家の意見

対照区でキリガが少し見られた。来年も使用して様子をみたい。

5. 評価

(1)資材の評価

項目	散布効果	実用性	使いやすさ	総合評価
評価	3	3	3	3

(2)評価の理由

散布効果　同等

実用性　同等

使いやすさ　同等

(3)その他特記事項

なし

りんご殺虫剤

ロムダンフロアブル

R7・新規

1. 試験目的　防除効果確認。

2. 対象病害虫　ミダレカクモンハマキ

3. 試験内容

(1)実施場所　弘前市坂元　　(2)実施農家　今　裕介

(3)実施支店　弘前南支店　　(4)担 当 者　今　修平

(5)概　　要

作 物 名　りんご　　品　　種　ふじ

樹　　齢　30 年　　栽植密度　7 m × 7 m 20 本/10a

開 花 日　5月9日　　収穫始め　11月4日

(6)試験構成

試験面積　20 a　（　試験区　10 a　対照区　10 a　）

試験区				対照区			
散布日	薬剤名	倍数	10a当散布量	散布日	薬剤名	倍数	10a当散布量
5月2日	カナメＦＬ	4,000	320ﾘｯﾄﾙ	5月2日	カナメＦＬ	4,000	320ﾘｯﾄﾙ
5月2日	ロムダンＦＬ	3,000	320ﾘｯﾄﾙ	5月2日	バイオマックスＤＦ	2,000	320ﾘｯﾄﾙ
5月12日	ミギワＦＬ	4,000	350ﾘｯﾄﾙ	5月12日	ミギワＦＬ	4,000	350ﾘｯﾄﾙ
5月12日	チオノックＦＬ	500	350ﾘｯﾄﾙ	5月12日	チオノックＦＬ	500	350ﾘｯﾄﾙ
5月12日	ロムダンＦＬ	3,000	350ﾘｯﾄﾙ	5月12日	バイオマックスＤＦ	2,000	350ﾘｯﾄﾙ

4. 試験結果

(1)防除効果

対象病害虫	防除前発生状況	防除後被害状況	
		試験区	対照区
ミダレカクモンハマキ	無	無	無

(2)薬害の発生　無

(3)農家の意見

両区とも害虫の発生は少ない

5. 評価

(1)資材の評価

項目	散布効果	実用性	使いやすさ	総合評価
評価	3	3	3	3

(2)評価の理由

散布効果　同等

実用性　同等

使いやすさ　同等

(3)その他特記事項

対照区の樹上部にてキリガ類の発生を確認した。発生量は気にならない程度だった。

りんご殺虫剤

コルト顆粒水和剤

R7・継続

1. 試験目的　防除効果確認。

2. 対象病害虫　ナシマルカイガラムシ

3. 試験内容

(1)実施場所　弘前市一野渡　(2)実施農家　山下　大地

(3)実施支店　弘前東支店　(4)担 当 者　古川　賢一

(5)概　　要

作 物 名　りんご　品　　種　金星、ジョナ

樹　　齢　20 年　栽植密度　7 m × 7 m 20 本/10a

開 花 日　5月5日　収穫始め　10月20日

(6)試験構成

試験面積　10 a （ 試験区 5 a 対照区 5 a ）

試験区				対照区			
散布日	薬剤名	倍数	10a当散布量	散布日	薬剤名	倍数	10a当散布量
6月14日	ジマンダイセン（水）	600	400ﾘｯﾄﾙ	6月14日	ジマンダイセン（水）	600	400ﾘｯﾄﾙ
〃	サイアノックス（水）	1,000	400ﾘｯﾄﾙ	〃	サイアノックス（水）	1,000	400ﾘｯﾄﾙ
〃	コルト（顆粒水）	3,000	400ﾘｯﾄﾙ	〃	クレフノン（水）	100	400ﾘｯﾄﾙ
〃	クレフノン（水）	100	400ﾘｯﾄﾙ				

4. 試験結果

(1)防除効果

対象病害虫	防除前発生状況	防除後被害状況	
		試験区	対照区
ナシマルカイガラムシ	少ない	少ない	少ない

(2)薬害の発生　無

(3)農家の意見

ナシマルカイガラムシの被害は少なくなっている。

5. 評価

(1)資材の評価

項目	散布効果	実用性	使いやすさ	総合評価
評価	3	3	3	3

(2)評価の理由

散布効果　対照区と同等のため。

実用性　対照区と同等のため。

使いやすさ　対照区と同等のため。

(3)その他特記事項

試験区、対照区ともに展葉1週間後頃（4月22日）にマシン油50倍を散布、対照区は落花40日後頃（6月24日）にモベント2,000倍を散布。

りんご殺虫剤

コルト顆粒水和剤

R7・継続

1. 試験目的　防除効果確認。

2. 対象病害虫　ナシマルカイガラムシ

3. 試験内容

(1)実施場所　如来瀬　　(2)実施農家　西澤　幸清

(3)実施支店　岩木支店　　(4)担 当 者　三浦　湧太

(5)概　　要

作 物 名　りんご　　品　　種　ふじ

樹　　齢　30 年　　栽植密度　7 m × 7 m 20 本/10a

開 花 日　5月9日　　収穫始め　11月8日

(6)試験構成

試験面積　40 a　（　試験区　20 a　対照区　20 a　）

試験区				対照区			
散布日	薬剤名	倍数	10a当散布量	散布日	薬剤名	倍数	10a当散布量
6月18日	ラビライト（水）	500	400ﾘｯﾄﾙ	6月18日	ラビライト（水）	500	400ﾘｯﾄﾙ
〃	サイアノックス（水）	1,000	400ﾘｯﾄﾙ	〃	サイアノックス（水）	1,000	400ﾘｯﾄﾙ
〃	コルト（顆粒水）	3,000	400ﾘｯﾄﾙ	〃	クレフノン（水）	100	400ﾘｯﾄﾙ
〃	クレフノン（水）	100	400ﾘｯﾄﾙ				

4. 試験結果

(1)防除効果

対象病害虫	防除前発生状況	防除後被害状況	
		試験区	対照区
ナシマルカイガラムシ	多い	少ない	多い

(2)薬害の発生　無

(3)農家の意見

被害果実が昨年に比べ減少した。

5. 評価

(1)資材の評価

項目	散布効果	実用性	使いやすさ	総合評価
評価	4	4	3	**4**

(2)評価の理由

散布効果　マシン油50倍との体系防除が効果的

実用性　有

使いやすさ　問題なし

(3)その他特記事項

マシン油50倍の散布を実施（昨年は実施しなかった）

りんご殺虫剤

ダイアジノンMC

R7・新規

1. 試験目的　防除効果の確認

2. 対象病害虫　クワコナカイガラムシ若齢幼虫、シンクイムシ類、リンゴワタムシ

3. 試験内容

(1)実施場所　藤崎町　(2)実施農家　佐藤　一春

(3)実施支店　藤崎支店　(4)担 当 者　鳴海　清志郎

(5)概　　要

作 物 名　りんご　品　　種　ふじ

樹　　齢　15 年　栽植密度　6 m × 6 m 24 本/10a

開 花 日　5月5日　収穫始め　11月8日

(6)試験構成

試験面積　60 a　（　試験区　30 a　対照区　30 a　）

試験区				対照区			
散布日	薬剤名	倍数	10a当散布量	散布日	薬剤名	倍数	10a当散布量
6月3日	デラン（F）	1,500	400ﾘｯﾄﾙ	6月3日	デラン（F）	1,500	400ﾘｯﾄﾙ
〃	ダイアジノンMC	1,500	400ﾘｯﾄﾙ	〃	エルサン（水）	1,000	400ﾘｯﾄﾙ
〃	クレフノン（水）	100	400ﾘｯﾄﾙ	〃	クレフノン（水）	100	400ﾘｯﾄﾙ

4. 試験結果

(1)防除効果

対象病害虫	防除前発生状況	防除後被害状況	
		試験区	対照区
クワコナカイガラムシ	無	無	無
シンクイムシ類	無	無	無
リンゴワタムシ	無	無	無

(2)薬害の発生

無

(3)農家の意見

問題なく使用できた。

5. 評価

(1)資材の評価

項目	散布効果	実用性	使いやすさ	総合評価
評価	3	3	4	3

(2)評価の理由

散布効果　同等

実用性　同等

使いやすさ　水和剤より良い

(3)その他特記事項

りんご殺虫剤

ダイアジノンMC

R7・新規

1. 試験目的　防除効果確認。

2. 対象病害虫　クワコナカイガラムシ若齢幼虫、シンクイムシ類、リンゴワタムシ

3. 試験内容

(1)実施場所　弘前市小沢　(2)実施農家　山形　淳

(3)実施支店　弘前南支店　(4)担 当 者　今　修平

(5)概　　要

作 物 名　りんご　品　　種　ふじ

樹　　齢　15 年　栽植密度　5 m × 3 m 67 本/10a

開 花 日　5月7日　収穫始め　11月10日

(6)試験構成

試験面積　20 a （ 試験区 10 a 対照区 10 a ）

試験区				対照区			
散布日	薬剤名	倍数	10a当散布量	散布日	薬剤名	倍数	10a当散布量
6月12日	ラビライト水和剤	500	500ﾘｯﾄﾙ	6月12日	ラビライト水和剤	500	500ﾘｯﾄﾙ
6月12日	ダイアジノンMC	1,500	500ﾘｯﾄﾙ	6月12日	ダイアジノン水和剤	1,000	500ﾘｯﾄﾙ
6月12日	クレフノン	100	500ﾘｯﾄﾙ	6月12日	クレフノン	100	500ﾘｯﾄﾙ

4. 試験結果

(1)防除効果

対象病害虫	防除前発生状況	防除後被害状況	
		試験区	対照区
クワコナカイガラムシ	少ない	無	無
シンクイムシ類	少ない	無	無
リンゴワタムシ	少ない	無	無

(2)薬害の発生　無

(3)農家の意見　液体なので混合しやすい。

5. 評価

(1)資材の評価

項目	散布効果	実用性	使いやすさ	総合評価
評価	3	4	4	**4**

(2)評価の理由

散布効果　同等

実用性　有り

使いやすさ　混合しやすい

(3)その他特記事項

りんご殺菌剤

ロンセラーフロアブル

R7・継続

1. 試験目的　防除効果の確認

2. 対象病害虫　黒星病、モニリア病、黒点病、赤星病、斑点落葉病、褐斑病

3. 試験内容

(1)実施場所　三和　(2)実施農家　芹川　和幸

(3)実施支店　北　(4)担 当 者　成田　将平

(5)概　　要

作 物 名　りんご　品　　種　ふじ

樹　　齢　15 年　栽植密度　5 m × 3 m 67 本/10a

開 花 日　5月8日　収穫始め　10月25日

(6)試験構成

試験面積　20 a　（　試験区　10 a　対照区　10 a　）

試験区				対照区			
散布日	薬剤名	倍数	10a当散布量	散布日	薬剤名	倍数	10a当散布量
5月3日	ロンセラーF	3,000	300ﾘｯﾄﾙ	5月3日	カナメF	4,000	300ﾘｯﾄﾙ
〃	バイオマックスDF	2,000	300ﾘｯﾄﾙ	〃	バイオマックスDF	2,000	300ﾘｯﾄﾙ

4. 試験結果

(1)防除効果

対象病害虫	防除前発生状況	防除後被害状況	
		試験区	対照区
黒星病	無	無	無
褐斑病	無	無	無

(2)薬害の発生

無

(3)農家の意見

差はない

5. 評価

(1)資材の評価

項目	散布効果	実用性	使いやすさ	総合評価
評価	3	3	3	3

(2)評価の理由

散布効果　差は感じられなかった。

実用性　同等

使いやすさ　同等

(3)その他特記事項

りんご殺菌剤

ロンセラーフロアブル

R7・継続

1. 試験目的　防除効果の確認

2. 対象病害虫　黒星病、モニリア病、黒点病、赤星病、斑点落葉病、褐斑病

3. 試験内容

(1)実施場所　田代　(2)実施農家　齊藤　晃

(3)実施支店　目屋支店　(4)担 当 者　葛西　隆芳

(5)概　　要

作 物 名　りんご　品　　種　ふじ

樹　　齢　20 年　栽植密度　7 m × 7 m 20 本/10a

開 花 日　5月10日　収穫始め　11月3日

(6)試験構成

試験面積　100 a　(　試験区　30 a　対照区　70 a　)

試験区				対照区			
散布日	薬剤名	倍数	10a当散布量	散布日	薬剤名	倍数	10a当散布量
5月10日	ロンセラーフロアブル	3,000	300リットル	5月10日	カナメフロアブル	4,000	300リットル

4. 試験結果

(1)防除効果

対象病害虫	防除前発生状況	防除後被害状況	
		試験区	対照区
黒星病	無	無	無
褐斑病	少ない	少ない	少ない

(2)薬害の発生　無

(3)農家の意見

何も問題はなかった

5. 評価

(1)資材の評価

項目	散布効果	実用性	使いやすさ	総合評価
評価	4	3	4	**4**

(2)評価の理由

散布効果　あり

実用性　あり

使いやすさ　問題ない

(3)その他特記事項

今年は春先の病害の発生が少なかったため黒星病については比較が困難でした。また、秋季の褐斑病は両区とも小発生であったことから効果はあるものと思われる。

りんご殺菌剤

デランフロアブル

R7・継続

1. 試験目的　防除効果の確認

2. 対象病害虫　黒星病、モニリア病、黒点病、赤星病、斑点落葉病、褐斑病

3. 試験内容

(1)実施場所　　(2)実施農家

(3)実施支店　　(4)担 当 者

(5)概　　要

作 物 名　　品　　種

樹　　齢　　栽植密度　　m × m #DIV/0! 本/10a

開 花 日　　収穫始め

(6)試験構成

試験面積　0 a　（　試験区　　a　対照区　　a　）

試験区				対照区			
散布日	薬剤名	倍数	10a当散布量	散布日	薬剤名	倍数	10a当散布量

4. 試験結果

(1)防除効果

対象病害虫	防除前発生状況	防除後被害状況	
		試験区	対照区

(2)薬害の発生

(3)農家の意見

5. 評価

(1)資材の評価

項目	散布効果	実用性	使いやすさ	総合評価
評価				

(2)評価の理由

散布効果

実用性

使いやすさ

(3)その他特記事項

諸事情により中央地区で試験ができなかった。

りんご殺菌剤

デランフロアブル

R7・継続

1. 試験目的　防除効果確認。

2. 対象病害虫　黒星病、モニリア病、黒点病、赤星病、斑点落葉病、褐斑病

3. 試験内容

(1)実施場所　大鰐町駒木　(2)実施農家　駒木共防

(3)実施支店　大鰐支店　(4)担 当 者　佐藤　琉乃介

(5)概　　要

作 物 名　りんご　品　　種　ふじ

樹　　齢　15 年　栽植密度　7 m × 7 m 20 本/10a

開 花 日　5月10日　収穫始め　11月30日

(6)試験構成

試験面積　40 a　（　試験区　20 a　対照区　20 a　）

試験区				対照区			
散布日	薬剤名	倍数	10a当散布量	散布日	薬剤名	倍数	10a当散布量
5月19日	ミギワ２０（F）	4,000	350ﾘｯﾄﾙ	5月19日	ミギワ２０（F）	4,000	350ﾘｯﾄﾙ
〃	デラン（F）	1,500	350ﾘｯﾄﾙ	〃	チオノック（F）	500	350ﾘｯﾄﾙ
〃	バイオマックス（DF）	2,000	350ﾘｯﾄﾙ	〃	バイオマックス（DF）	2,000	350ﾘｯﾄﾙ

4. 試験結果

(1)防除効果

対象病害虫	防除前発生状況	防除後被害状況	
		試験区	対照区
モニリア	無	無	無
黒星病	無	無	無
褐斑病	無	無	無

(2)薬害の発生　無

(3)農家の意見

両区とも問題はなかった。

5. 評価

(1)資材の評価

項目	散布効果	実用性	使いやすさ	総合評価
評価	3	3	3	3

(2)評価の理由

散布効果　対象区と同等だったため。

実用性　対象区と同等だったため。

使いやすさ　対象区と同等だったため。

(3)その他特記事項

りんご殺菌剤

ベンレート水和剤

R7・継続

1. 試験目的　防除効果の確認

2. 対象病害虫　腐らん病

3. 試験内容

(1)実施場所　三和　　(2)実施農家　齋藤　美樹

(3)実施支店　弘前北　　(4)担 当 者　斎藤　剛志

(5)概　　要

作 物 名　りんご　　品　　種　ふじ

樹　　齢　15 年　　栽植密度　6 m × 6 m 28 本/10a

開 花 日　5月6日　　収穫始め　11月24日

(6)試験構成

試験面積　20 a　（　試験区　10 a　対照区　10 a　）

試験区				対照区			
散布日	薬剤名	倍数	10a当散布量	散布日	薬剤名	倍数	10a当散布量
4月24日	精製マシン油	200	300ﾘｯﾄﾙ	4月24日	精製マシン油	200	300ﾘｯﾄﾙ
〃	ベンレート（水）	2,000	300ﾘｯﾄﾙ	〃	ベフラン（液）	1,000	300ﾘｯﾄﾙ
〃	チオノック（F）	500	300ﾘｯﾄﾙ	〃	アプロード（F）	1,000	300ﾘｯﾄﾙ
〃	アプロード（F）	1,000	300ﾘｯﾄﾙ				

4. 試験結果

(1)防除効果

対象病害虫	防除前発生状況	防除後被害状況	
		試験区	対照区
ふらん病	少ない	少ない	少ない

(2)薬害の発生

無

(3)農家の意見

混用の手間がある

5. 評価

(1)資材の評価

項目	散布効果	実用性	使いやすさ	総合評価
評価	3	3	2	3

(2)評価の理由

散布効果　同等

実用性　同等

使いやすさ　混用の手間がある

(3)その他特記事項

なし

りんご殺菌剤

ベンレート水和剤

R7・継続

1. 試験目的　防除効果の確認

2. 対象病害虫　腐らん病

3. 試験内容

(1)実施場所　大鰐町駒木　(2)実施農家　駒木生産共防

(3)実施支店　大鰐支店　(4)担 当 者　佐藤　琉乃介

(5)概　　要

作 物 名　りんご　品　　種　ふじ

樹　　齢　20 年　栽植密度　5 m × 3 m 67 本/10a

開 花 日　5月10日　収穫始め　11月20日

(6)試験構成

試験面積　40 a　（　試験区　20 a　対照区　20 a　）

試験区				対照区			
散布日	薬剤名	倍数	10a当散布量	散布日	薬剤名	倍数	10a当散布量
4月28日	マシン油（乳）	200	300ﾘｯﾄﾙ	4月28日	マシン油（乳）	200	300ﾘｯﾄﾙ
〃	ベンレート（水）	2,000	300ﾘｯﾄﾙ	〃	ベフラン（液）	1,000	300ﾘｯﾄﾙ
〃	チオノック（F）	500	300ﾘｯﾄﾙ				

4. 試験結果

(1)防除効果

対象病害虫	防除前発生状況	防除後被害状況	
		試験区	対照区
腐らん病	少ない	少ない	少ない

(2)薬害の発生　無

(3)農家の意見

両区とも問題はなかった。

5. 評価

(1)資材の評価

項目	散布効果	実用性	使いやすさ	総合評価
評価	3	3	3	3

(2)評価の理由

散布効果　対象区と同等だったため。

実用性　対象区と同等だったため。

使いやすさ　対象区と同等だったため。

(3)その他特記事項

りんご殺虫剤

スミチオン水和剤40

R7・新規

1. 試験目的　防除効果確認。

2. 対象病害虫　モモシンクイガ、ナシヒメシンクイ、ギンモンハモグリガ、クワコナカイガラムシ

3. 試験内容

(1)実施場所　原ケ平　　(2)実施農家　對馬　雅之

(3)実施支店　弘前東支店　　(4)担 当 者　藤田　翔悟

(5)概　　要

作 物 名　りんご　　品　　種　サンふじ

樹　　齢　15 年　　栽植密度　5 m × 5 m 40 本/10a

開 花 日　5月4日　　収穫始め　10月25日

(6)試験構成

試験面積　50 a　（　試験区　25 a　対照区　25 a　）

試験区				対照区			
散布日	薬剤名	倍数	10a当散布量	散布日	薬剤名	倍数	10a当散布量
6月14日	ジマンダイセン水和剤	600	420ﾘｯﾄﾙ	6月14日	ジマンダイセン水和剤	600	420ﾘｯﾄﾙ
〃	スミチオン水和剤	800	420ﾘｯﾄﾙ	〃	サイアノックス水和剤	1,000	420ﾘｯﾄﾙ
〃	コルト顆粒水和剤	3,000	420ﾘｯﾄﾙ	〃	コルト顆粒水和剤	3,000	420ﾘｯﾄﾙ
〃	クレフノン	100	420ﾘｯﾄﾙ	〃	クレフノン	100	420ﾘｯﾄﾙ

4. 試験結果

(1)防除効果

対象病害虫	防除前発生状況	防除後被害状況	
		試験区	対照区
モモシンクイガ	無	無	無
ナシヒメシンクイ	無	無	無
ギンモンハモグリガ	無	無	無
クワコナカイガラムシ	無	無	無

(2)薬害の発生　無

(3)農家の意見

試験区、対象区ともに差は見られなかった。

5. 評価

(1)資材の評価

項目	散布効果	実用性	使いやすさ	総合評価
評価	3	3	3	3

(2)評価の理由

散布効果　同等

実用性　同等

使いやすさ　同等

(3)その他特記事項

規格が、500ｇと1kgしかないため調合しにくいが、今後1.25kgが出る予定のため使いやすさは同等にした。

りんご殺虫剤

スミチオン水和剤40

R7・新規

1. 試験目的　防除効果確認。

2. 対象病害虫　モモシンクイガ、ナシヒメシンクイ、ギンモンハモグリガ、クワコナカイ

3. 試験内容

(1)実施場所　弘前市如来瀬　(2)実施農家　西澤　正

(3)実施支店　岩木支店　(4)担 当 者　佐藤　貴哉

(5)概　　要

作 物 名　りんご　品　　種　サンふじ・金星

樹　　齢　30 年　栽植密度　7 m × 7 m 20 本/10a

開 花 日　5月7日　収穫始め　10月25日

(6)試験構成

試験面積　30 a （ 試験区 15 a 対照区 15 a ）

試験区				対照区			
散布日	薬剤名	倍数	10a当散布量	散布日	薬剤名	倍数	10a当散布量
6月8日	デランフロアブル	1,500倍	350ℓ	6月8日	デランフロアブル	1,500倍	350ℓ
6月8日	スミチオン水和剤	800倍	350ℓ	6月8日	エルサン水和剤	1000倍	350ℓ
6月8日	クレフノン水和剤	100倍	350ℓ	6月8日	クレフノン水和剤	100倍	350ℓ

4. 試験結果

(1)防除効果

対象病害虫	防除前発生状況	防除後被害状況	
		試験区	対照区
モモシンクイガ	無	無	無
ナシヒメシンクイ	無	無	無
ギンモンハモグリガ	無	無	無
クワコナカイガラムシ	無	無	無

(2)薬害の発生

無

(3)農家の意見

問題はないが、両区ともに高温・干ばつの影響により黄変落葉が見られた。

5. 評価

(1)資材の評価

項目	散布効果	実用性	使いやすさ	総合評価
評価	3	3	2	3

(2)評価の理由

散布効果　あり。

実用性　あり。

使いやすさ　倍数と容量により調合しにくい。

(3)その他特記事項

りんご殺菌剤

トップジンM水和剤

R7・継続

1. 試験目的　防除効果の確認

2. 対象病害虫　モニリア病・腐らん病

3. 試験内容

(1)実施場所　藤崎町西中野目　(2)実施農家　髙谷　博之

(3)実施支店　藤崎支店　(4)担 当 者　鳴海　清志郎

(5)概　　要

作 物 名　りんご　品　　種　ふじ

樹　　齢　20 年　栽植密度　7 m × 6 m 24 本/10a

開 花 日　5月5日　収穫始め　11月13日

(6)試験構成

試験面積　60 a （ 試験区 30 a 対照区 30 a ）

試験区				対照区			
散布日	薬剤名	倍数	10a当散布量	散布日	薬剤名	倍数	10a当散布量
4月24日	マシン油（乳）	200	300ﾘｯﾄﾙ	4月24日	マシン油（乳）	200	300ﾘｯﾄﾙ
〃	トップジンM（水）	1,000	300ﾘｯﾄﾙ	〃	ベフラン（液）	1,000	300ﾘｯﾄﾙ
〃	チオノックフロアブル	500	300ﾘｯﾄﾙ				

4. 試験結果

(1)防除効果

対象病害虫	防除前発生状況	防除後被害状況	
		試験区	対照区
モニリア病	無	無	無
フラン病	無	無	無

(2)薬害の発生　無

(3)農家の意見　対照区と差はなかった

5. 評価

(1)資材の評価

項目	散布効果	実用性	使いやすさ	総合評価
評価	3	3	3	3

(2)評価の理由

散布効果　同等

実用性　同等

使いやすさ　一剤増えるが特に問題ない

(3)その他特記事項

りんご殺菌剤

トップジンM水和剤

R7・継続

1. 試験目的　防除効果の確認

2. 対象病害虫　腐らん病、モニリア病

3. 試験内容

(1)実施場所　悪戸　(2)実施農家　鳥井野ＳＳ共防５班

(3)実施支店　岩木支店　(4)担 当 者　三浦　湧太

(5)概　　要

作 物 名　りんご　品　　種　ふじ

樹　　齢　30年　栽植密度　7 m × 7 m 20 本/10a

開 花 日　5月9日　収穫始め　11月10日

(6)試験構成

試験面積　40 a　（　試験区　20 a　対照区　20 a　）

試験区				対照区			
散布日	薬剤名	倍数	10a当散布量	散布日	薬剤名	倍数	10a当散布量
4月22日	マシン油（乳）	200	350ﾘｯﾄﾙ	4月22日	マシン油（乳）	200	350ﾘｯﾄﾙ
〃	チオノック（F）	500	350ﾘｯﾄﾙ	〃	ベフラン（液）	1,000	350ﾘｯﾄﾙ
〃	トップジン（水）	1,000	350ﾘｯﾄﾙ				

4. 試験結果

(1)防除効果

対象病害虫	防除前発生状況	防除後被害状況	
		試験区	対照区
モニリア病	無	無	無
腐らん病	少ない	少ない	少ない

(2)薬害の発生

無

(3)農家の意見

差は感じられなかった。

5. 評価

(1)資材の評価

項目	散布効果	実用性	使いやすさ	総合評価
評価	3	3	3	3

(2)評価の理由

散布効果　同等

実用性　あり

使いやすさ　ベフランに比べ１剤増えるがあまり気にならない。

(3)その他特記事項

りんご殺虫剤

トランスフォームフロアブル

R7・新規

1. 試験目的　防除効果の確認

2. 対象病害虫　アブラムシ類・カイガラムシ類・リンゴワタムシ

3. 試験内容

(1)実施場所　十腰内　　(2)実施農家　工藤　茂明

(3)実施支店　十腰内　　(4)担 当 者　斎藤　剛志

(5)概　　要

作 物 名　りんご　　品　　種　ふじ

樹　　齢　30 年　　栽植密度　8 m × 8 m 16 本/10a

開 花 日　5月5日　　収穫始め　10月28日

(6)試験構成

試験面積　40 a　（　試験区　20 a　対照区　20 a　）

試験区				対照区			
散布日	薬剤名	倍数	10a当散布量	散布日	薬剤名	倍数	10a当散布量
6月12日	パスポート(顆水)	1,000	450ﾘｯﾄﾙ	6月12日	パスポート（顆水）	1,000	450ﾘｯﾄﾙ
〃	サイアノックス(水)	1,000	450ﾘｯﾄﾙ	〃	サイアノックス(水)	1,000	450ﾘｯﾄﾙ
〃	トランスフォーム（F）	2,000	450ﾘｯﾄﾙ	〃	コルト（顆水）	3,000	450ﾘｯﾄﾙ

4. 試験結果

(1)防除効果

対象病害虫	防除前発生状況	防除後被害状況	
		試験区	対照区
アブラムシ類	普通	無	無
カイガラムシ類	多い	少ない	少ない
リンゴワタムシ	少ない	無	無

(2)薬害の発生　無

(3)農家の意見

両区とも昨年に比べ被害果は少なかった。

5. 評価

(1)資材の評価

項目	散布効果	実用性	使いやすさ	総合評価
評価	3	3	3	3

(2)評価の理由

散布効果　同等

実用性　同等

使いやすさ　同等

(3)その他特記事項

作用点の違いからか、対照区に比べて少し被害果が見えた。

りんご殺虫剤

トランスフォームフロアブル

R7・新規

1. 試験目的　防除効果確認。

2. 対象病害虫　アブラムシ類・カイガラムシ類・リンゴワタムシ

3. 試験内容

(1)実施場所　吉川　　(2)実施農家　吉沢　良一

(3)実施支店　目屋支店　　(4)担 当 者　葛西　隆芳

(5)概　　要

作 物 名　りんご　　品　　種　ふじ

樹　　齢　30 年　　栽植密度　7 m × 6 m 24 本/10a

開 花 日　5月9日　　収穫始め　11月9日

(6)試験構成

試験面積　90 a　（　試験区　30 a　対照区　60 a　）

試験区				対照区			
散布日	薬剤名	倍数	10a当散布量	散布日	薬剤名	倍数	10a当散布量
6月20日	ジマンダイセン	600	450ﾘｯﾄﾙ	6月20日	ジマンダイセン	600	450ﾘｯﾄﾙ
〃	サイアノックス	1,000	450ﾘｯﾄﾙ	〃	サイアノックス	1,000	450ﾘｯﾄﾙ
〃	トランスフォーム	2,000	450ﾘｯﾄﾙ	〃	コルト	3,000	450ﾘｯﾄﾙ

4. 試験結果

(1)防除効果

対象病害虫	防除前発生状況	防除後被害状況	
		試験区	対照区
アブラムシ	普通	無	無
サンホーゼカイガラムシ	多い	少ない	少ない
リンゴワタムシ	少ない	無	無

(2)薬害の発生

無

(3)農家の意見

散布に問題はなかった。昨年より被害が軽減された。

5. 評価

(1)資材の評価

項目	散布効果	実用性	使いやすさ	総合評価
評価	3	2	3	3

(2)評価の理由

散布効果　効果はあると思われるが、対象区にくらべ被害果がみられた。

実用性　散布時期。要検討。

使いやすさ　問題ない

(3)その他特記事項

来年も継続して他剤と比較をしたい。

りんご殺虫剤

モベントフロアブル

R7・新規

1. 試験目的　防除効果確認。

2. 対象病害虫　カイガラムシ類・アブラムシ類

3. 試験内容

(1)実施場所　弘前市一野渡　(2)実施農家　山下　大地

(3)実施支店　弘前東支店　(4)担 当 者　古川　賢一

(5)概　　要

作 物 名　りんご　品　　種　金星、ジョナ

樹　　齢　20 年　栽植密度　7 m × 7 m 20 本/10a

開 花 日　5月5日　収穫始め　10月20日

(6)試験構成

試験面積　10 a　（　試験区　5 a　対照区　5 a　）

試験区				対照区			
散布日	薬剤名	倍数	10a当散布量	散布日	薬剤名	倍数	10a当散布量
6月24日	デラン（F）	1,500	400ﾘｯﾄﾙ	6月24日	デラン（F）	1,500	400ﾘｯﾄﾙ
〃	モスピラン（顆粒水溶）	4,000	400ﾘｯﾄﾙ	〃	モスピラン（顆粒水溶）	4,000	400ﾘｯﾄﾙ
〃	モベント（F）	2,000	400ﾘｯﾄﾙ				

4. 試験結果

(1)防除効果

対象病害虫	防除前発生状況	防除後被害状況	
		試験区	対照区
カイガラムシ類	少ない	少ない	少ない
アブラムシ類	少ない	少ない	少ない

(2)薬害の発生

無

(3)農家の意見

問題なく使用できた。

5. 評価

(1)資材の評価

項目	散布効果	実用性	使いやすさ	総合評価
評価	3	3	3	3

(2)評価の理由

散布効果　対照区と同等のため。

実用性　対照区と同等のため。

使いやすさ　対照区と同等のため。

(3)その他特記事項

試験区、対照区ともに展葉1週間後頃（4月22日）にマシン油50倍を散布、対照区は落花30日後頃（6月14日）にコルト3,000倍を散布。

りんご殺虫剤

モベントフロアブル

R7・新規

1. 試験目的　防除効果確認。

2. 対象病害虫　カイガラムシ類・アブラムシ類

3. 試験内容

(1)実施場所　弘前市小沢　(2)実施農家　山形　拓也

(3)実施支店　弘前南支店　(4)担 当 者　今　修平

(5)概　　要

作 物 名　りんご　品　　種　ふじ

樹　　齢　25 年　栽植密度　7 m × 7 m 20 本/10a

開 花 日　5月7日　収穫始め　11月8日

(6)試験構成

試験面積　20 a　（　試験区　10 a　対照区　10 a　）

試験区				対照区			
散布日	薬剤名	倍数	10a当散布量	散布日	薬剤名	倍数	10a当散布量
6月25日	ジマンダイセン水和剤	600	500ﾘｯﾄﾙ	6月25日	ジマンダイセン水和剤	600	500ﾘｯﾄﾙ
6月25日	モスピラン顆粒水溶剤	4,000	500ﾘｯﾄﾙ	6月25日	モスピラン顆粒水溶剤	4,000	500ﾘｯﾄﾙ
6月25日	モベントＦＬ	2,000	500ﾘｯﾄﾙ	6月25日	カルマッチ	770	500ﾘｯﾄﾙ
6月25日	カルマッチ	770	500ﾘｯﾄﾙ				

4. 試験結果

(1)防除効果

対象病害虫	防除前発生状況	防除後被害状況	
		試験区	対照区
カイガラムシ類	少ない	少ない	少ない
アブラムシ類	少ない	少ない	少ない

(2)薬害の発生

無

(3)農家の意見

昨年に比べカイガラムシの被害果が減少した。

5. 評価

(1)資材の評価

項目	散布効果	実用性	使いやすさ	総合評価
評価	3	3	3	3

(2)評価の理由

散布効果　同等

実用性　同等

使いやすさ　同等

(3)その他特記事項

両区にてカイガラムシの被害果が確認されるたが、園地外周のため飛び込みによるものと思われる。

りんご殺菌剤

チオノックフロアブル

R7・新規

1. 試験目的　防除効果の確認

2. 対象病害虫　黒星病

3. 試験内容

(1)実施場所　藤崎町西中野目　(2)実施農家　髙谷　博之

(3)実施支店　藤崎支店　(4)担 当 者　鳴海　清志郎

(5)概　　要

作 物 名　りんご　品　　種　ふじ

樹　　齢　20 年　栽植密度　7 m × 6 m 24 本/10a

開 花 日　5月5日　収穫始め　11月13日

(6)試験構成

試験面積　60 a （ 試験区 30 a 対照区 30 a ）

試験区				対照区			
散布日	薬剤名	倍数	10a当散布量	散布日	薬剤名	倍数	10a当散布量
4月24日	マシン油（乳）	200	300ﾘｯﾄﾙ	4月24日	マシン油（乳）	200	300ﾘｯﾄﾙ
〃	トップジンM（水）	1,000	300ﾘｯﾄﾙ	〃	ベフラン（液）	1,000	300ﾘｯﾄﾙ
〃	チオノックフロアブル	500	300ﾘｯﾄﾙ				

4. 試験結果

(1)防除効果

対象病害虫	防除前発生状況	防除後被害状況	
		試験区	対照区
黒星病	無	無	無

(2)薬害の発生　無

(3)農家の意見

対象区と差はなかった

5. 評価

(1)資材の評価

項目	散布効果	実用性	使いやすさ	総合評価
評価	3	3	3	3

(2)評価の理由

散布効果　同等

実用性　同等

使いやすさ　同等

(3)その他特記事項

りんご殺菌剤

チオノックフロアブル

R7・新規

1. 試験目的　防除効果の確認

2. 対象病害虫　黒星病

3. 試験内容

(1)実施場所　三和　　(2)実施農家　齋藤　美樹

(3)実施支店　弘前北　　(4)担 当 者　斎藤　剛志

(5)概　　要

作 物 名　りんご　　品　　種　ふじ

樹　　齢　15 年　　栽植密度　6 m × 6 m 28 本/10a

開 花 日　5月6日　　収穫始め　11月24日

(6)試験構成

試験面積　20 a　（　試験区　10 a　対照区　10 a　）

試験区				対照区			
散布日	薬剤名	倍数	10a当散布量	散布日	薬剤名	倍数	10a当散布量
4月24日	精製マシン油	200	300ﾘｯﾄﾙ	4月24日	精製マシン油	200	300ﾘｯﾄﾙ
〃	ベンレート（水）	2,000	300ﾘｯﾄﾙ	〃	ベフラン（液）	1,000	300ﾘｯﾄﾙ
〃	チオノック（F）	500	300ﾘｯﾄﾙ	〃	アプロード（F）	1,000	300ﾘｯﾄﾙ
〃	アプロード（F）	1,000	300ﾘｯﾄﾙ				

4. 試験結果

(1)防除効果

対象病害虫	防除前発生状況	防除後被害状況	
		試験区	対照区
黒星病	無	無	無

(2)薬害の発生

無

(3)農家の意見

混用の手間がある

5. 評価

(1)資材の評価

項目	散布効果	実用性	使いやすさ	総合評価
評価	3	3	2	3

(2)評価の理由

散布効果　同等

実用性　同等

使いやすさ　混用の手間がある

(3)その他特記事項

なし

りんご殺菌剤

チオノックフロアブル

R7・新規

1. 試験目的　防除効果の確認

2. 対象病害虫　黒星病

3. 試験内容

(1)実施場所　大鰐町駒木　(2)実施農家　駒木共防

(3)実施支店　大鰐支店　(4)担 当 者　佐藤　琉乃介

(5)概　　要

作 物 名　りんご　品　　種　ふじ

樹　　齢　15 年　栽植密度　7 m × 7 m 20 本/10a

開 花 日　5月10日　収穫始め　11月15日

(6)試験構成

試験面積　40 a　（　試験区　20 a　対照区　20 a　）

試験区				対照区			
散布日	薬剤名	倍数	10a当散布量	散布日	薬剤名	倍数	10a当散布量
5月1日	マシン油（乳）	200	300ﾘｯﾄﾙ	5月1日	マシン油（乳）	200	300ﾘｯﾄﾙ
〃	トップジンM（水）	1,000	300ﾘｯﾄﾙ	〃	ベフラン（液）	1,000	300ﾘｯﾄﾙ
〃	チオノック（F）	500	300ﾘｯﾄﾙ				

4. 試験結果

(1)防除効果

対象病害虫	防除前発生状況	防除後被害状況	
		試験区	対照区
黒星病	無	無	無

(2)薬害の発生　無

(3)農家の意見

両区とも問題はなった。

5. 評価

(1)資材の評価

項目	散布効果	実用性	使いやすさ	総合評価
評価	3	3	3	3

(2)評価の理由

散布効果　対象区と同等だったため。

実用性　対象区と同等だったため。

使いやすさ　対象区と同等だったため。

(3)その他特記事項

りんご殺菌剤

チオノックフロアブル

R7・新規

1. 試験目的　防除効果の確認

2. 対象病害虫　黒星病

3. 試験内容

(1)実施場所　悪戸　　(2)実施農家　鳥井野ＳＳ共防５班

(3)実施支店　岩木支店　　(4)担 当 者　三浦　湧太

(5)概　　要

作 物 名　りんご　　品　　種　ふじ

樹　　齢　30年　　栽植密度　7 m × 7 m 20 本/10a

開 花 日　5月9日　　収穫始め　11月10日

(6)試験構成

試験面積　40 a　（　試験区　20 a　対照区　20 a　）

試験区				対照区			
散布日	薬剤名	倍数	10a当散布量	散布日	薬剤名	倍数	10a当散布量
4月22日	マシン油（乳）	200	350ﾘｯﾄﾙ	4月22日	マシン油（乳）	200	350ﾘｯﾄﾙ
〃	チオノック（F）	500	350ﾘｯﾄﾙ	〃	ベフラン（液）	1,000	350ﾘｯﾄﾙ
〃	トップジン（水）	1,000	350ﾘｯﾄﾙ				

4. 試験結果

(1)防除効果

対象病害虫	防除前発生状況	防除後被害状況	
		試験区	対照区
黒星病	無	無	無

(2)薬害の発生

無

(3)農家の意見

差は感じられなかった。

5. 評価

(1)資材の評価

項目	散布効果	実用性	使いやすさ	総合評価
評価	3	3	3	3

(2)評価の理由

散布効果　同等

実用性　あり

使いやすさ　ベフランに比べ１剤増えるがあまり気にならない。

(3)その他特記事項

受粉昆虫補助資材

ポリヌス

R7・新規

1. 試験目的　効果の確認

2. 対象昆虫　マメコバチなどの訪花昆虫

3. 試験内容

(1)実施場所　十腰内　　(2)実施農家　丸岡　義昭

(3)実施支店　十腰内　　(4)担 当 者　斎藤　剛志

(5)概　　要

作 物 名　りんご　　品　　種　ふじ

樹　　齢　30 年　　栽植密度　6 m × 6 m 27.7777778 本/10a

開 花 日　5月5日　　収穫始め　10月26日

(6)試験構成

試験面積　20 a　（　試験区　10 a　無処理区　10 a　）

試験区				対照区			
設置日	薬剤名	設置本数	10a当本数	設置日	薬剤名	設置本数	10a当本数
4月30日	ポリヌス	20	20	4月30日	無設置		

4. 試験結果

(1)資材効果

対象昆虫	設置前状況	設置後状況	
		試験区	対照区
マメコバチなどの訪花昆虫	少ない	少ない	少ない

(2)薬害の発生

無

(3)農家の意見

結実に問題はなかったが、ポリヌスの効果かどうかはわからない。

5. 評価

(1)資材の評価

項目	設置効果	対象昆虫に対する実用性	総合評価
評価	2	2	2

(2)評価の理由

設置効果　両区とも同等の結実状況だった

実用性　判断が難しい

使いやすさ　設置は簡単だった

(3)その他特記事項

なし

受粉昆虫補助資材

ポリヌス

R7・新規

1. 試験目的　効果の確認

2. 対象昆虫　マメコバチなどの訪花昆虫

3. 試験内容

(1)実施場所　弘前市新岡　(2)実施農家　佐藤　裕介

(3)実施支店　岩木支店　(4)担 当 者　佐藤　貴哉

(5)概　　要

作 物 名　りんご　品　　種　サンふじ

樹　　齢　25年生　栽植密度　5 m × 3 m 66 本/10a

開 花 日　5月9日　収穫始め　10月25日

(6)試験構成

試験面積　20 a （ 試験区 10 a 無処理区 10 a ）

試験区				対照区			
設置日	薬剤名	設置本数	10a当本数	設置日	薬剤名	設置本数	10a当本数
4月30日	ポリヌス	20本	20本	4月30日	無設置		

4. 試験結果

(1)資材効果

対象昆虫	設置前状況	設置後状況	
		試験区	対照区
ミツバチ等の訪花昆虫	少ない	少ない	少ない

(2)薬害の発生

無

(3)農家の意見

訪花昆虫が増えたか判然としないが、結実しているので問題はないのでは？

5. 評価

(1)資材の評価

項目	設置効果	対象昆虫に対する実用性	総合評価
評価	3	2	**2**

(2)評価の理由

設置効果　結実しているので、問題ないのでは？

実用性　判然としない。

使いやすさ　ぶら下げるだけなので、これで訪花昆虫が増えるのなら良い。

(3)その他特記事項

結果が良くわからない。専門機関での結果などを考慮しなければ、来年度、
採用は決められないと思う。